

ブラジルの「ニホンジン」

令和4年7月5日(火)～7月18日(月)

中央図書館閲覧カウンター前

今年はブラジルがポルトガルから独立して200年のメモリアルイヤーです。そのブラジルには1908年以降、新天地を求めて多くの移民が日本から渡りました。その数はおよそ20万人。現在はその子孫を含めた「日系人」の総数は200万人とも言われており、ブラジル社会の一翼を担っています。そして現在ではそのうち約20万人が日本国内で働いています。

7月8日(金)に人文学類シンポジウムで「ブラジルの日本人移民とアイデンティティの問題～saudade～」と題して講演するオスカー・ナカザト氏は日系3世。ブラジル日本人移民の歴史をある移民一家に仮託してポルトガル語で書いた小説「NIHONJIN」は2012年、ブラジルの芥川賞ともいべきジャブチ賞を受賞するなど注目を集めました。そこで今回はオスカー・ナカザト氏の金沢大学訪問を記念して、特別公開の貴重資料を含む展示によって、ブラジルに渡った日本人移民の歴史を振り返ります。

■ミニ講演会

講師

杉山欣也先生

(人間社会研究域教授・附属図書館副館長)

日時

令和4年7月6日(水) 15:00～15:30

場所

中央図書館 AV 室 ※ブックラウンジで同時配信



■人文学類シンポジウム

「ブラジルの日本人移民とアイデンティティの問題 ～saudade～」

7月8日(金) 10:30～12:00

人間社会第1講義棟202教室およびオンライン

※ブックラウンジで同時配信



zoom 事前登録

オスカー・ナカザト氏

詳細はこちら



主催 附属図書館 / 共催 人文学類

※本企画は JSPS 科研費課題番号 20K00338 による研究成果の一部です